

第6回 地理学連携機構・地理関連学会連合・人文・経済地理及び  
地域教育関連学会連携協議会 合同総会議事録

日時 2014年3月26日（水） 11:00～12:20

会場 国士舘大学 34号館301教室

出席学協会

経済地理学会（小田宏信），人文地理学会（山野正彦），地域地理科学会（吉本 勇），地理教育研究会（谷川尚哉），地理空間学会（山下清海），東京地学協会（村山祐司），東北地理学会（島田周平），日本沙漠学会（豊田裕道），日本生気象学会（松本 太），日本雪氷学会（朝日克彦），日本地図学会（森田 喬），日本地理学会（須貝俊彦），日本地理教育学会（寺本 潔），日本陸水学会（木庭啓介）

欠席学協会

水文・水資源学会，地理科学学会，地理情報システム学会，日本環境教育学会，日本環境共生学会，日本写真測量学会，日本水文科学会，日本地域学会，日本地下水学会，日本地形学連合，日本地質学会，日本都市学会，日本都市計画学会，日本土壌肥料学会，日本農業気象学会，兵庫地理学協会，歴史地理学会

地理学連携機構

代表・碓井照子（日本学術会議会員），副代表・地理関連学会連合議長・氷見山幸夫（日本学術会議会員），人文・経済地理及び地域教育関連学会連携協議会議長・山川充夫（日本学術会議会員），幹事・須貝俊彦，次期幹事予定者・春山成子，書記・米家泰作

議事

山川充夫委員の司会により開会。議事に先立ち、前年度の総会議事録案を承認した。

（1） 地理学連携機構の本年度の活動報告について

碓井照子代表より、2013年度の当機構の活動が報告された。主な活動として、①日本学術会議の「マスタープラン2014」策定にあたり、「地域の知」の再構築・共有・実践のための情報基盤形成」を学術会議第1部地域研究委員会地域情報分科会より提案した。②IGUの2013年京都国際地理学会議に際し、交流の夕べを開催した。③地理基礎・歴史基礎に関する文部科学省研究開発学校の研修会の支援、および日本学術会議の地理学関連のシンポジウム（「増大する災害と地球環境問題に地球人間圏科学はどう取り組むか？」，「大学教育の分野別質保証に関する教育課程編成上の参照基準・地理学」，「地域の再生と国のかたちー東日本大震災の教訓を活かす」）の後援を行った。

（2） I G U 「2013年京都国際地理学会議」報告

氷見山幸夫副代表（IGU副会長）より、2013年のIGUの活動について説明がなされた。2013年京都国際地理学会議が成功裡に終わり、高い評価を得たこと、またICSU（国際科学会議）ほかが進める地球環境研究プログラム「フューチャー・アース」に関して、IGUとしての取り組みが検討されていることについて、報告があった。

（3） 日本学術会議での活動と高校地理歴史科教育に関するシンポジウムについて

碓井代表（日本学術会議会員）より、日本学術会議における地理学・地理教育に関わる動向について報告がなされた。特に、上記（1）①で触れた「マスタープラン2014」のほか、②東日本大震災に関わる諸提言とシンポジウム（「地殻災害の軽減と学術・教育」），③地理基礎・歴史基礎の必修化に関するシンポジウムの計画（2014年6月14日予定「新しい高校地理・歴史教育の創造」），④上記（2）で触れた「フューチャー・アース」推進の取り組みについて詳しい説明があり、学術・教育における地理学

の役割と課題が再確認された。

また氷見山副代表より、「フューチャー・アース」に関する取り組みとして、日本学術会議における「フューチャー・アースの推進に関する委員会」とシンポジウム「Future Earth: 持続可能な未来の社会へ向けて」、またIGUにおける検討状況について説明があり、地理学・地理教育の重要性と社会への貢献の必要性について補足説明がなされた。

#### (4) 地球惑星科学連合の動向について

氷見山副代表より地球惑星科学連合における地理学関連の動向について報告がなされた。特に、同連合における地理学者の比重や研究領域に関して、今年の大会プログラム（配布資料）を参照して説明がなされた。

#### (5) 地理学連携機構の来年度役員について

碓井代表より、連携機構幹事を須貝俊彦委員から春山成子氏に交代する案が提案され、了承された。また新しく事務担当となる米家泰作氏が紹介された。

#### (6) その他

出席の各学協会より、それぞれの動向や取り組んでいる課題について紹介があった。

また、碓井代表より、この1月に高校日本史の必修化の報道があったことが説明され、地理教育としても必修化にむけて地理学連携機構が活動を展開することについて提案があり、了承された。上記③の日本学術会議の地理基礎・歴史基礎の提言に関するシンポジウムの趣旨が再度紹介されるとともに、各学協会においても教育政策における地理教育の必修化問題について呼びかけがなされた。地理学連携機構としても、加盟学協会とともに、引き続き地理教育の発展に努めることが再確認された。

また次期幹事の春山成子氏より、地理学・地理教育の意義を、地理の内だけでなく、外へと訴える必要性について発言があり、その際に地理オリンピック等が重要であることが指摘された。

氷見山副代表より、IGU関連の情報等を本機構の加盟学協会にスムーズに伝達できる体制を整えることの必要性が指摘され、代表・副代表・幹事・事務担当で情報を共有し、事務担当より加盟学協会に情報発信することとした。

(書記：米家)